

# 第68期報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

## ホームページのご紹介

### ●TOPページ



IRページ  
最新のIR情報を提供しています。  
決算説明会資料では新しい中期経営計画についても説明しています。



purifié情報ページ  
飲用純水ボトルウォーター「purifié（ピュリファイ）」についてご紹介するページです。

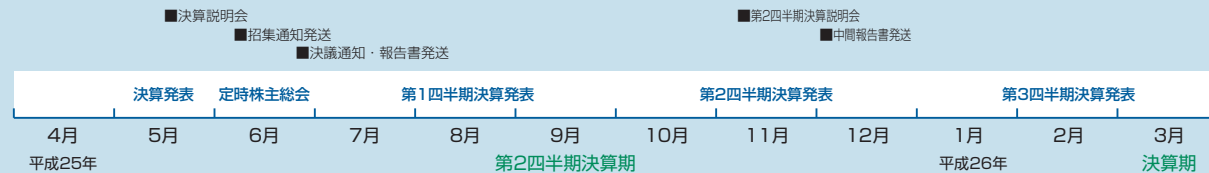
プロダクトサイト  
小型製品から大規模水処理システム、運転管理まで、お客様のニーズに即した情報を提供します。



# Ecologically Clean

## IRカレンダー（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

※平成25年6月27日現在の予定です。



### オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111  
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



# オルガノ株式会社

企業コンセプト

# Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは  
かけがえのない地球の未来を見つめ  
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐があり、誇りの持てる企業を目指す

## 株主の皆様へ



代表取締役社長

内田 敏行

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、ここに当社の第68期事業年度（平成24年度）のご報告をさせていただきます。

### 1. 当連結会計年度の概況

当期におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要、円高の修正などを背景に、年度後半には緩やかな景気回復に向かいつつも、欧州の債務危機再燃や中国の経済成長減速など世界景気の下振れ懸念などから全体としては先行き不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く市場環境は、国内では企業の生産活動に下げ止まりの兆しが見られるようになってきたものの、設備投資やメンテナンス・改造工事の延期、顧客生産拠点の統廃合・海外移転は継続しており、また、主たる海外市場であるアジア地域においても、価格競争は一段と激しさを増しており、引き続き厳しい状況にあります。

当社グループは、平成22年度より3ヵ年の中期経営計画をスタートさせ、電子産業分野をはじめとする国内大型投資案件主体のビジネス体制から、海外・産業全般における純水・排水、さらには回収に至る広範囲の水処理ニーズにプラント・ソリューション・機能商品部門が一体となって対応できる体制へ

と再構築を進め、売上の拡大及び海外調達等を含む一層のコストダウンにより、収益の改善に取り組んでまいりました。

この結果、受注高、売上高につきましては、国内では、設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより売上が減少しましたが、海外では、電子産業分野において、旺盛な設備増強投資に支えられ受注及び売上が増加し、顧客工場の操業度低下の中、機能商品事業が前期並みとなったことなどにより、受注高602億円（前期比11.5%減）、売上高667億円（同2.6%減）となりました。また、利益面につきましては、売上高の減少及び売上構成の変化などにより、営業利益34億円（前期比27.9%減）、経常利益39億円（同18.3%減）、当期純利益25億円（同4.4%減）となりました。

なお、当期の期末配当金につきましては、当期の業績を踏まえ、中間配当金と同じく1株当たり6円とさせていただきます。これにより当期の年間配当金は1株当たり12円となります。

### 2. 次期の見通し

国内では、円高修正や業績回復の期待などを受けて、一部産業では新規設備投資の検討がされるようになってきましたが、電子産業をはじめとする生産拠点の統廃合や海外移転の動きは継続しており、本格的な設備投資、实体经济の回復には未だ時間を要するものと思われる。また、海外では長期化する欧州の債務危機や中国の経済成長率の鈍化など世界経済の先行きは依然不透明ですが、東南アジア地域においては、電子産業、飲料・食品産業、火力発電所などで今後も堅調な設備投資が続くものと見ております。

このような状況のもと、当社グループは、国内では新規設備投資案件の受注に注力するとともに、用・排水設備及びソリューション案件への取り組みを強化し、海外調達を含む一層のコストダウンに努め、海外では、拠点の整備・人員増加など営業体制をさらに強化し、国内外で受注・売上の拡大を図ってまいります。

通期の業績見通しにつきましては、受注高750億円（当期比24.5%増）、売上高730億円（同9.4%増）、営業利益30億円（同14.2%減）、経常利益28億円（同28.4%減）、当期純利益15億円（同41.5%減）を見込んでおります。

次期の配当金につきましては、業績の見通しを勘案し、当期と同じく1株当たり年間12円（中間配当金、期末配当金ともに1株当たり6円）を予定しております。

### 3. 今後の経営方針

当社グループは、リーマンショックによる世界同時不況、事業環境の大きな変化に見舞われた平成21年の経験から、電子産業分野を中心とする国内大型投資案件主体のビジネス体制から、産業全般分野／純水・排水両輪／海外事業の拡大を目指して、中期経営計画を策定し、業績悪化からの回復、事業構造の再構築に取り組んでまいりました。初年度、2年度は、計画に沿った売上高、営業利益を計上することができましたが、最終年度にあたる平成24年度は最終目標値、売上高750億円、営業利益50億円を達成できませんでした。これは市場環境の変化が計画策定時の想定をはるかに上回るスピードで進み、事業ポートフォリオの転換が未だ道半ばであるためと考えております。

こうした結果を踏まえ、事業構造の転換を市場志向、顧客志向にてさらに加速させるため、「水処理事業分野における顧客のあらゆるニーズに対して、ワンストップソリューション（One Stop Solutions）が提供できる企業グループの実現」を中期経営ビジョンとして掲げ、平成25年度より新しい3ヵ年の中期経営計画をスタートさせました。ワンストップソリューションの提供を通じて、外部環境の変化に柔軟に対応し、国内外を問わず、純水製造から排水処理まで、新設から改造・メンテナンス・運転管理まで、装置から機能材料・薬品まで、産業分野から生活系分野まで、水処理事業分野において「顧客から選ばれる企業グループの実現」を目指してまいります。

### 4. 最後に

新中期経営計画では、最終年度の平成27年度の数値目標として売上高850億円、営業利益60億円を掲げておりますが、本計画の位置付けは、単に数値目標の達成を追求することだけでなく、当社グループが次のステージに向かうための体制・基盤作りにあると考えております。

株主の皆様におかれましては、今後ともますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

平成25年6月



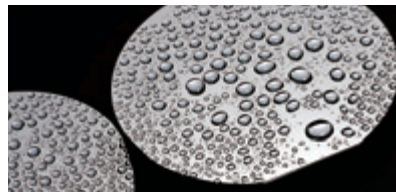
# 事業紹介

オルガノの事業は、『水処理エンジニアリング事業』と『機能商品事業』に分かれており、『水処理エンジニアリング事業』では、大型水処理装置の製造販売を行う「プラント事業」と納入した装置のメンテナンスや運転管理を行う「ソリューション事業」を展開しております。

## ▶ プラント事業

### 電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部へ排水を出さずに循環利用するクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



### 一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システム、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



### 電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所において主要水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持しています。さらに、国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。



東京電力㈱ご提供

### 上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。上水道では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理設備など、下水道では生物処理設備、高速繊維ろ過装置など、オルガノの技術が活躍しています。



### 医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供しています。



## ▶ ソリューション事業

### メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

### 提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良を提案します。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

### 水処理アウトソーシング受託事業

#### ■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。

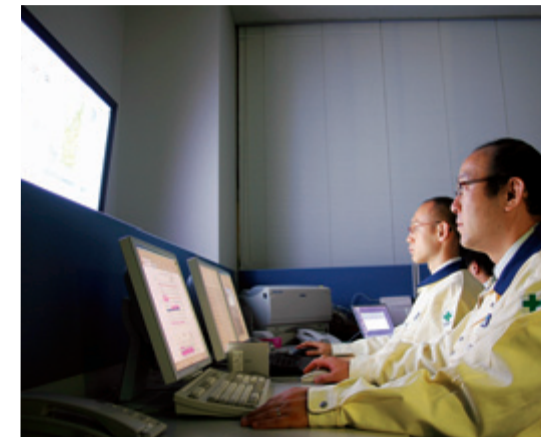


#### ■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

#### ■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視しており、異常があった際の早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データの変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブル防止に貢献します。



#### ■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ 機能商品事業

標準製品

純水装置はもちろん、水に新たな機能を付加する機能水製造装置など、お客様の短納期・低コストへのニーズに応える豊富な商品ラインアップを有しており、電子産業から食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで、広く用いられています。

新トレイ化純水製造システム「オルフェヴ」



2段RO膜ユニット RDシリーズ

電気脱塩式純水装置 EY-XP/EY-HFシリーズ

水処理薬品

冷却効果を高め省エネにつなげる冷却水処理薬品やボイラを効率的に運転するための処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

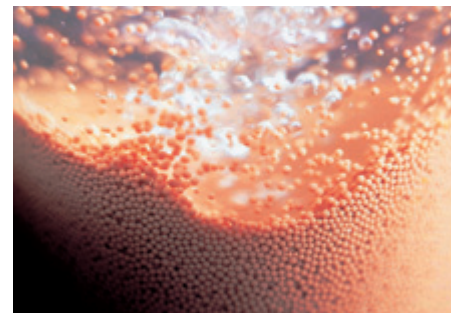
食品加工材の分野では、主にハムや即席めんの改良に用いられるリン酸塩が国内トップシェアの実績。その他、第三のビールに使用されるエンドウたん白をはじめ、様々な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。オルガノの技術は豊かな食文化の創造にも貢献しています。



イオン交換樹脂

「イオン交換樹脂」の非水系分野への応用

イオン交換樹脂と言えば「水処理」の代表的な機能材料ですが、オルガノは水処理以外の分野への応用にも取り組んでいます。当社の超純水製造で培ったイオン交換樹脂のクリーン化技術を応用し、電子材料精製向けの乾燥イオン交換樹脂「アンバーリストDRYシリーズ」及び超クリーンイオン交換樹脂「オルライトDSシリーズ」を開発。電子材料として使用される有機溶媒、ポリマー等を製造するプロセスへの適用を進めています。当社のコア技術であるイオン交換樹脂のさらなる可能性を求めて、新分野を積極的に開拓します。



平成25年度より、新しい3カ年の中期経営計画をスタート

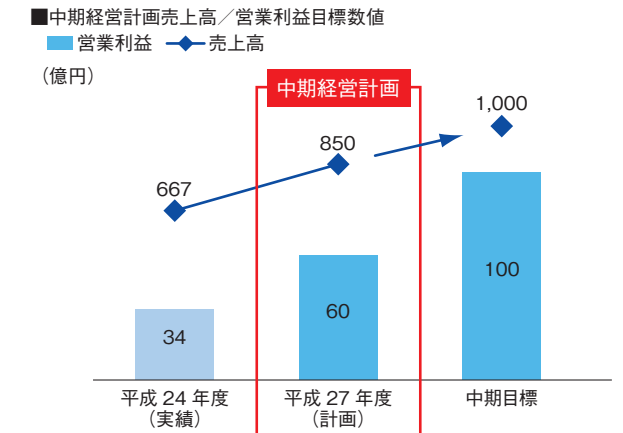
中期経営ビジョン

“ワンストップソリューション” (One Stop Solutions)

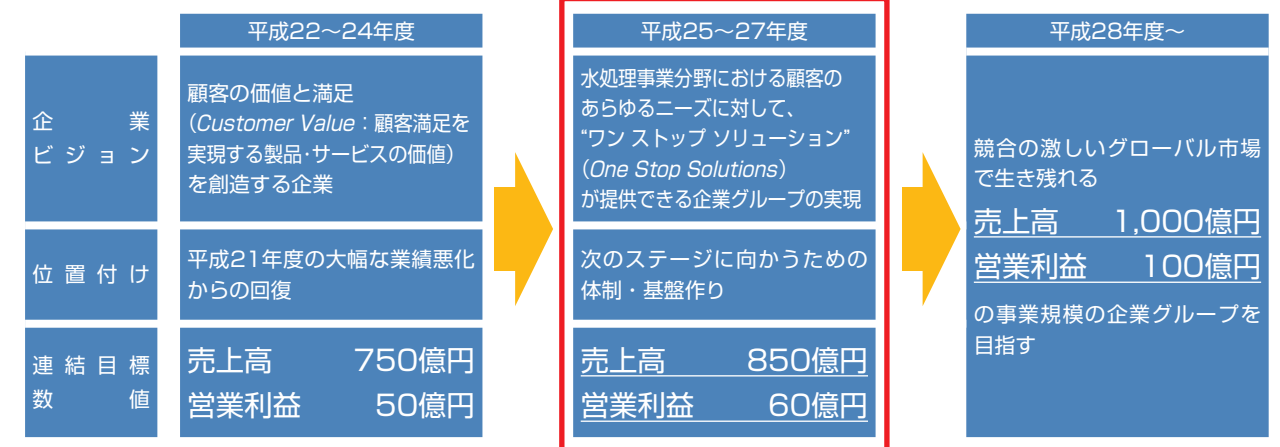
新しい3カ年の中期経営計画では、「水処理事業分野における顧客のあらゆるニーズに対して、ワンストップソリューション (One Stop Solutions) が提供できる企業グループの実現」を中期経営ビジョンとして掲げています。本計画では、事業ポートフォリオの転換をさらに加速するとともに、当社グループが次のステージに向かうための体制・基盤作りの3カ年計画と位置付け、以下の重点課題に取り組みます。

- ① 電力・電子産業における純水／超純水製造分野でのシェア確保
- ② 環境・排水事業分野における積極的な事業展開
- ③ ソリューション・機能商品事業のさらなる収益性の向上及び事業拡大
- ④ 海外事業における地域市場特性に応じた技術・商品開発の推進
- ⑤ コストダウン・工事力の強化
- ⑥ 新商品、新事業の速やかな立上げ

これらの取り組みを通じて、機動的な開発・製造・営業体制の構築を目指します。



【中期経営計画の位置付け】



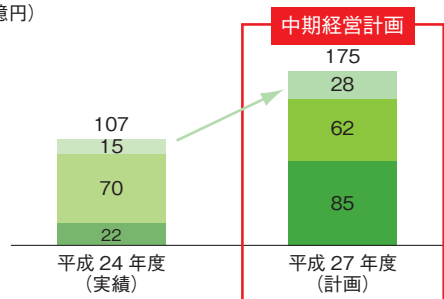
## 海外事業拡大に向けた取り組み

当社グループでは、平成22年度から平成24年度までの中期経営計画を通じて、拡大するアジア地域での水処理需要を獲得するため、海外部門の強化を進めました。平成22年7月に、顧客工場の水を迅速に評価し、最適な水処理システムが提案できるよう、中国蘇州市のオルガノ（蘇州）内に研究センターを開設、同年8月には東南アジア地域のネットワーク拡充のため、ベトナムに新たな現地法人を設立しました。また、この3年間でアジア地域において現地スタッフ及び日本人スタッフを約300人増員し、着実に海外事業の基盤強化を図りました。その結果、当中期経営計画スタート前は32億円だった海外売上高が最終年度の平成24年度には107億円に拡大しました。

本年4月より、新たな3か年の中期経営計画をスタートさせていますが、「地域市場特性に応じた技術・商品開発」「現地企業への事業範囲の拡大」などを進めることにより、海外事業をさらに強化し、最終年度の平成27年度には海外売上高175億円、海外売上高比率20%を目指します。

海外事業のさらなる強化に向けた、当社グループの新たな取り組みについてご紹介します。

■海外地域別中期経営計画売上高目標数値  
 ■中国 ■台湾 ■東南アジア  
 (億円)



### エンジニアリング力・調達力強化のため新組織発足

本年5月より、タイの首都バンコクにおいてエンジニアリング拠点及び調達拠点を既存のタイ現地法人内に設立しました。当社グループは、中国、台湾及び東南アジア諸国に現地法人を開設し、水処理事業を展開しています。これらの地域では日系企業の進出が旺盛であり、現地企業の成長も著しいことから、水処理事業の需要拡大が期待される一方で、受注競争も激しさを増しています。日本国内のエンジニアリング・調達部門との連携により、アジア地域における水処理ニーズに機動的に対応し、また価格競争力のある技術や製品を提供することで、当社グループの海外事業のさらなる拡大を図ります。

### インドネシア共和国で合併事業開始

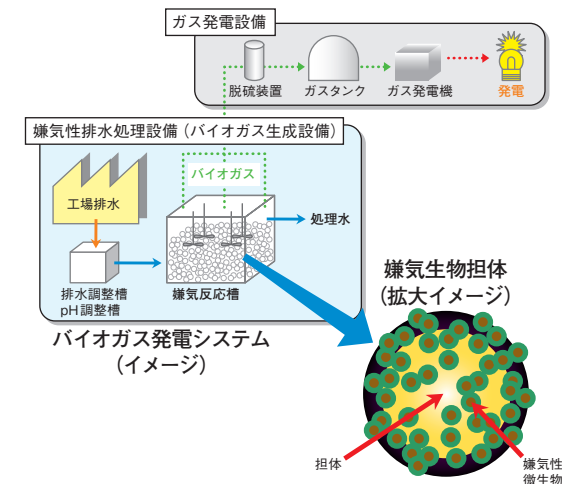
成長著しいインドネシアにおいて、本年1月より同国大手化学メーカーであるラウタン・ルアス社と水処理事業で合併事業を開始しました。合併事業開始にあたり、インドネシア国内で水処理事業を展開している同社子会社の発行済株式の51%を取得し、当社の子会社とするとともに、社名をラウタン・オルガノ・ウォーターとしました。ラウタン・ルアス社の水処理薬品の実績や顧客基盤と、オルガノの水処理技術を活用し、日系企業のみならず、現地企業の開拓を積極的に図ります。



## 流動担体型高速嫌気排水処理装置を開発

工場から排出される有機系排水処理向けに、嫌気性微生物を利用した高速排水処理装置を開発、本年2月に本格販売を開始しました。微生物の保持や生育に適した直径5mm前後の粒状の接触材（担体）を採用し、担体が反応槽内で効果的な動きをするよう最適に制御することによって、従来の好気性処理に比べ10倍以上、嫌気グラニュール®法に比べて3倍以上の高速処理を実現しました。また、好気性微生物処理に比べ大量の電力を消費する空気注入が不要になることに加えて、処理の際に発生するメタンガスが発電等のエネルギー源として利用可能であることなどから省エネや売電にもつながります。食品、飲料、化学分野などを中心に、平成27年度に国内外で10億円の売上を目指します。

※グラニュール：微生物の自己造粒作用等により形成された粒状体



## 身近なところで利用されている当社のフィルター型浄水器

レストランのドリンクバーやファストフード店などで見かける飲料ディスペンサー、街中やオフィスに設置されているカップ式の飲料自動販売機や給茶機。ここでもオルガノの製品が活躍しています。お茶やコーヒーの風味は水に左右されますが、当社では水の塩素臭やかび臭、汚れや細菌を取り除くフィルター型浄水器の販売に約40年前から取り組んでいます。現在では、大手ファストフードチェーン、飲料メーカー、外食チェーンで多く採用されており、平成24年度は年間合計約28万本を出荷しました。また、昨年より大手コンビニエンスストア用のコーヒーマシンに採用されるなど、さらなる需要開拓を進めています。外食産業向けに夜間・休日などの営業時間外に対応できるコールセンターを構築し、浄水器の交換まで含めたサービスを開始するなど、フィルタービジネスの拡大を目指しています。



【フィルター型浄水器設置機器事例】



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期末 (平成25年3月31日現在)	前期末 (平成24年3月31日現在)	比較増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	60,671	59,888	783
固定資産	24,637	24,821	△ 183
有形固定資産	21,338	21,589	△ 251
無形固定資産	326	380	△ 53
投資その他の資産	2,972	2,851	120
<b>資産合計</b>	<b>85,309</b>	<b>84,709</b>	<b>599</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	31,991	30,879	1,111
固定負債	8,110	10,814	△ 2,704
<b>負債合計</b>	<b>40,101</b>	<b>41,694</b>	<b>△ 1,592</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	44,805	42,920	1,885
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	-
利益剰余金	29,397	27,508	1,889
自己株式	△ 325	△ 321	△ 3
その他の包括利益累計額	△ 39	△ 250	210
少数株主持分	441	345	95
<b>純資産合計</b>	<b>45,207</b>	<b>43,015</b>	<b>2,192</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>85,309</b>	<b>84,709</b>	<b>599</b>

◆固定負債

長期借入金の減少などにより2,704百万円減少しました。

◆純資産の部

当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加などにより2,192百万円増加しました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	比較増減
売上高	66,718	68,502	△ 1,783
売上原価	49,871	50,137	△ 265
売上総利益	16,846	18,365	△ 1,518
販売費及び一般管理費	13,348	13,515	△ 167
<b>営業利益</b>	<b>3,498</b>	<b>4,849</b>	<b>△ 1,350</b>
営業外収益	565	247	318
営業外費用	154	314	△ 159
<b>経常利益</b>	<b>3,909</b>	<b>4,782</b>	<b>△ 872</b>
特別利益	15	198	△ 183
特別損失	20	23	△ 2
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>3,904</b>	<b>4,957</b>	<b>△ 1,052</b>
法人税、住民税及び事業税	1,193	1,829	△ 635
法人税等調整額	118	410	△ 292
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b>	<b>2,591</b>	<b>2,717</b>	<b>△ 125</b>
少数株主利益	27	33	△ 6
<b>当期純利益</b>	<b>2,564</b>	<b>2,683</b>	<b>△ 118</b>

◆売上高

海外では、電子産業分野の旺盛な設備増強投資に支えられ売上が増加し、国内においては、一般産業分野を中心に前期からの受注済案件が順調に進捗した一方で、電子産業分野の売上が減少したことから、売上高は66,718百万円と前期に比べて減少しました。

◆営業利益・経常利益

コストダウンによる収益の改善に努めたものの、売上高の減少や機能商品事業などの採算性の低下により、営業利益3,498百万円、経常利益3,909百万円と前期に比べて減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,318	△ 5,231
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,319	414
財務活動によるキャッシュ・フロー	291	1,898
現金及び現金同等物に係る換算差額	403	△ 185
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,942	△ 3,103
現金及び現金同等物の期首残高	10,273	13,376
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	473	-
現金及び現金同等物の期末残高	8,804	10,273

◆営業活動によるキャッシュ・フロー

1,318百万円の資金流出となりました。主な資金の増加は税金等調整前当期純利益及び減価償却費の計上によるものであり、主な支出は売上債権の増加及び仕入債務の減少によるものです。

◆投資活動によるキャッシュ・フロー

1,319百万円の資金流出となりました。主な支出は有形固定資産の取得によるものです。

◆財務活動によるキャッシュ・フロー

291百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は短期借入金の増加によるものであり、主な支出は長期借入金の返済及び配当金の支払によるものです。

当期末の現金及び現金同等物は前期末に比べ1,469百万円減少し、8,804百万円になりました。

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
当期首残高	8,225	7,508	27,508	△ 321	42,920	△ 250	345	43,015
当期変動額	-	-	-	-	-	-	-	-
剰余金の配当	-	-	△ 691	-	△ 691	-	-	△ 691
当期純利益	-	-	2,564	-	2,564	-	-	2,564
連結会社の増加に伴う利益剰余金増加高	-	-	16	-	16	-	-	16
自己株式の取得	-	-	-	△ 4	△ 4	-	-	△ 4
自己株式の処分	-	-	△ 0	0	0	-	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	210	95	306
当期変動額合計	-	-	1,889	△ 3	1,885	210	95	2,192
当期末残高	8,225	7,508	29,397	△ 325	44,805	△ 39	441	45,207

単体財務情報

■貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期末 (平成25年3月31日現在)	前期末 (平成24年3月31日現在)	比較増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	45,166	46,026	△ 859
固定資産	23,407	23,024	383
<b>負債の部</b>			
流動負債	24,549	23,782	766
固定負債	7,533	10,176	△ 2,643
<b>純資産の部</b>			
株主資本	36,314	34,988	1,325
評価・換算差額等	178	102	75
<b>総資産</b>	<b>68,574</b>	<b>69,050</b>	<b>△ 475</b>

■損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	比較増減
売上高	41,586	43,910	△ 2,324
売上原価	31,727	32,956	△ 1,228
売上総利益	9,859	10,954	△ 1,095
販売費及び一般管理費	8,395	8,537	△ 142
<b>営業利益</b>	<b>1,463</b>	<b>2,417</b>	<b>△ 953</b>
営業外収支	1,005	985	19
<b>経常利益</b>	<b>2,469</b>	<b>3,402</b>	<b>△ 933</b>
特別収支	130	110	20
<b>税引前当期純利益</b>	<b>2,599</b>	<b>3,513</b>	<b>△ 913</b>
法人税等	579	1,216	△ 637
<b>当期純利益</b>	<b>2,020</b>	<b>2,296</b>	<b>△ 275</b>

注) 本報告書は決算短信などの数値、文章を基に作成しています。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などをご確認ください。

【水処理エンジニアリング事業】

当事業におきましては、国内では一般産業分野を中心に前期からの受注残が順調に売上計上となったものの、設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより電子産業分野の売上が減少しました。一方、海外では、電子産業分野が旺盛な設備増強投資に支えられ、受注及び売上ともに増加しました。この結果、受注高40,786百万円（前期比16.2%減）、売上高47,468百万円（同3.3%減）、営業利益2,321百万円（同19.2%減）となりました。

【機能商品事業】

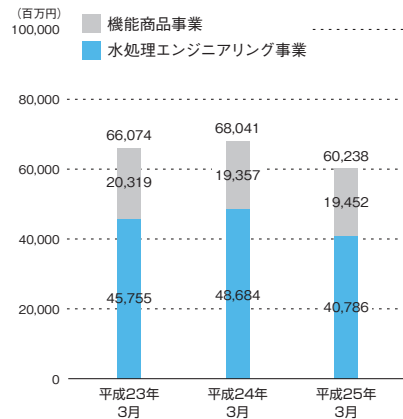
当事業におきましては、顧客工場の操業度に低下がみられる中で、受注及び売上はほぼ前期並みとなる一方、採算性が低下した結果、受注高19,452百万円（前期比0.5%増）、売上高19,249百万円（同0.8%減）、営業利益1,177百万円（同40.5%減）となりました。

■ セグメント別業績

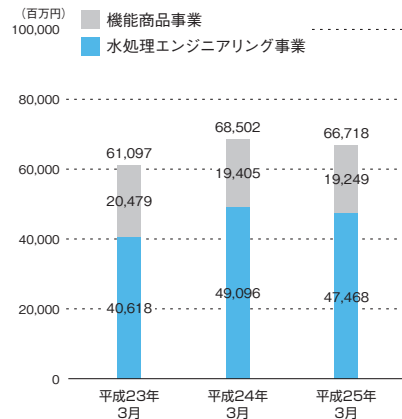
(単位：百万円)

科目	当期 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)	前期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	比較増減
<b>■ 受注高</b>			
水処理エンジニアリング事業	40,786	48,684	△ 7,898
機能商品事業	19,452	19,357	94
<b>■ 売上高</b>			
水処理エンジニアリング事業	47,468	49,096	△ 1,627
機能商品事業	19,249	19,405	△ 156
<b>■ 営業利益</b>			
水処理エンジニアリング事業	2,321	2,871	△ 550
機能商品事業	1,177	1,977	△ 800

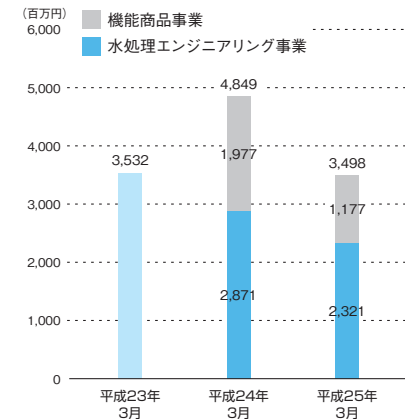
■ 受注高



■ 売上高

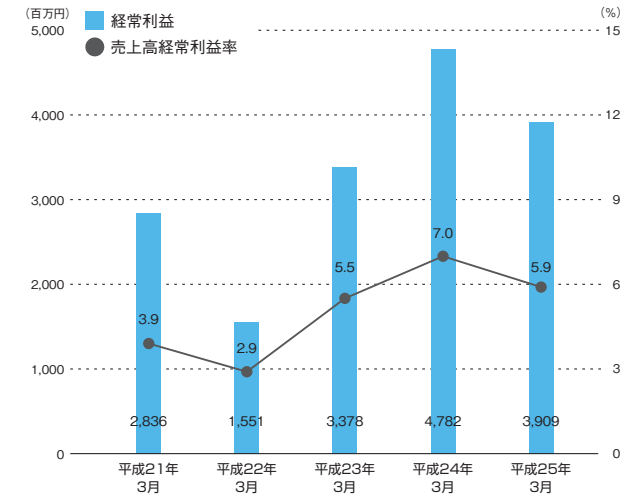


■ 営業利益

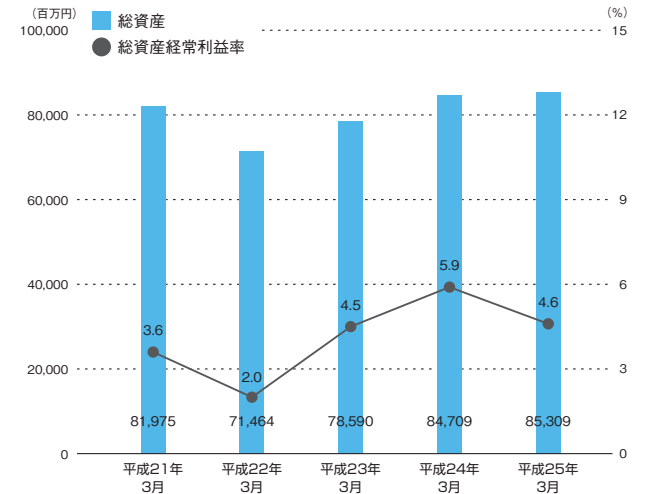


当期より、各セグメントの経営実態をよりの確に把握できる体制が整ったため、全社共通営業費用のうち各セグメントへの関連が明確な費用については各セグメントに直接賦課する方法に変更しました。  
なお、前期のセグメント情報は、変更後の配賦方法に基づき作成したものです。平成23年3月期の営業利益については合計値のみ表示しています。

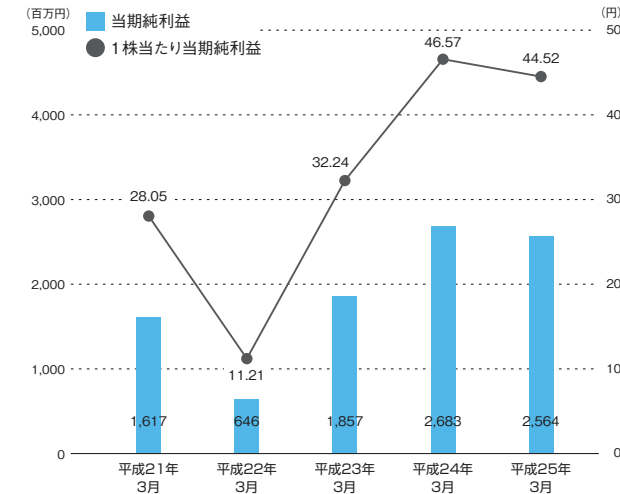
■ 経常利益／売上高経常利益率



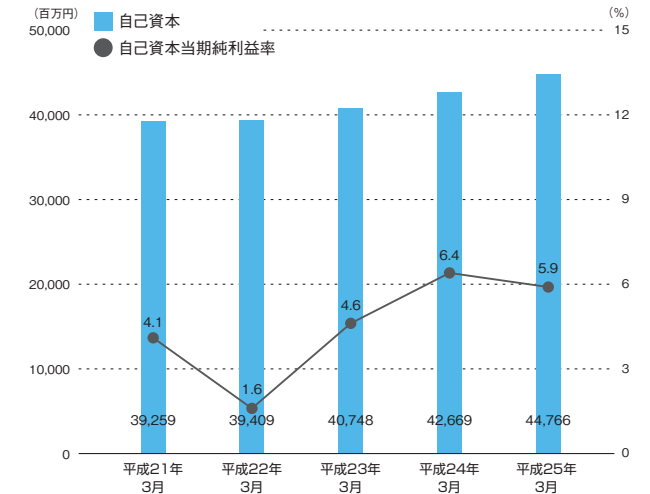
■ 総資産／総資産経常利益率(ROA)



■ 当期純利益／1株当たり当期純利益



■ 自己資本／自己資本当期純利益率(ROE)



会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)  
 創業 昭和21年5月1日  
 資本金 8,225,499,312円  
 従業員数 連結1,835名 (単体683名)  
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631  
 東京都江東区新砂1丁目2番8号  
 開発センター 相模原  
 工場 つくば、いわき  
 事業所 長崎  
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo(Asia)Sdn.Bhd.  
 オルガノ東北(株) 奥加諾(蘇州)水処理有限公司  
 オルガノ東京(株) 奥露佳瑞科技股份有限公司  
 オルガノ中部(株) Organo(Thailand)Co.,Ltd.  
 オルガノ関西(株)  
 オルガノ九州(株)  
 オルガノプラントサービス(株) (注) Organo (Thailand) Co.,Ltd.は重要性が増したため、当期末より連結対象子会社としました。  
 オルガノフードテック(株)  
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員 (平成25年6月27日現在)

取締役社長	内田 裕行
取締役兼専務執行役員	山根 修二
取締役兼常務執行役員	奥園 修一
取締役兼常務執行役員	浦井 紀久
取締役兼常務執行役員	渡辺 大輔
取締役兼常務執行役員	伊藤 智章
取締役兼常務執行役員	豊田 正彦
取締役兼執行役員	古内 力
取締役	江守 新八郎
常勤監査役	中村 聖和
監査役	中根 俊章
監査役	星 一也
執行役員	砂岡 好夫
執行役員	羽多野 敦
執行役員	長谷川 雅順
執行役員	梅香 豊
執行役員	明賀 春樹
執行役員	吉田 重人
執行役員	安藤 正士
執行役員	山口 良一
執行役員	下畑 昌樹
執行役員	高杉 仁

(注1) 内田裕行、山根修二は代表取締役であります。  
 (注2) 中根俊章及び星一也は社外監査役であります。  
 (注3) 中根俊章は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

■ その他グループ会社

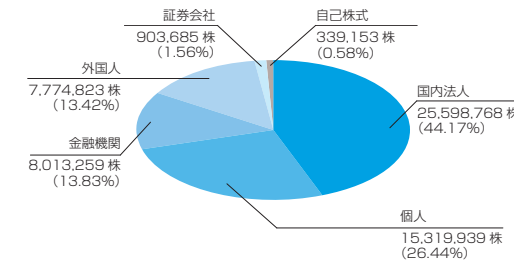
(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo(Singapore)Pte Ltd  
 オルガノ・ハイテック(有) Organo(Vietnam)Co., Ltd.  
 環境テクノ(株) PT Lautan Organo Water  
 オルガノエコテクノ(株)  
 東北電機鉄工(株)

株式の状況

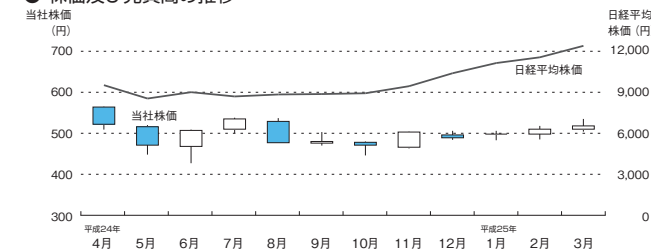
- 発行可能株式総数 ..... 126,960,000 株
- 発行済株式総数 ..... 57,949,627 株
- 株主総数 ..... 8,228 名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
MSCO CUSTOMER SECURITIES	2,173	3.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,479	2.55
株式会社みずほ銀行	1,000	1.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	815	1.41
みずほ信託銀行株式会社	775	1.34
ケーピーシー セキュリティーズ エヌバイ クライアツ アカウント ノン トリーティ	710	1.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	651	1.12
ノーザン トラスト カンパニー(エイブイエフシー) アカウント ユーエスエル ノン トリーティ	621	1.07
三井住友信託銀行株式会社	407	0.70

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
	期末配当 3月31日
	中間配当 9月30日
単元株式数	1,000株
公告掲載方法	電子公告
	公告掲載アドレス <a href="http://www.organo.co.jp/">http://www.organo.co.jp/</a>
	ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
連絡先	〒168-0063
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号
	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
	電話0120-782-031 (フリーダイヤル)
電話照会先	
受付窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国本支店
ホームページアドレス	<a href="http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html">http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html</a>
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)

株式に関する諸手続のお申し出先について

- 住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
- 証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
- 未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の全国本支店 (コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・i-Stationを除く) で取り扱います。